

市民に開かれた議会、わかりやすい議会へ一歩前進

22日、臨時議会が開かれ、正副議長の選挙が行われました。結果は、次の通りでした。

議長選挙

山岸行則（無所属の会） 26票
 早津輝雄（政和クラブ） 22票

副議長選挙

古澤 弘（政新） 35票
 無効 13票

今回の正副議長選挙にあたって、わが党などいくつかの会派が共同して主張した結果、「立候補制」が導入され、本会議で「所信表明」が行われることになりました。これまでは、誰が手を挙げていいのか、議会運営についてどんな考えを持っているのか、市民も議会もわからないまま、本会議でいきなり投票してしまいました。それが「所信表明」を行うことになったのですから、画期的なことです。市民に開かれた、わかりやすい市議会にむけて貴重な一歩前進となりました。しかし、この所信表明演説は、残念ながら「JCTV」では放映されませんでした。次回はぜひ放映してほしいものです。所信表明演説で山岸議員は、一党一派に偏らない議会運営をするため、これまで所属していた市民クラブから離脱したことを明らかにしたうえで、次のように述べました。多くの苦難の末に合併した新上越市は合併後1年5ヶ月、人間で言えばまだよちよち歩きの段階だ。14市町村の一体感を醸成していくためにも、ここ2、3年の（市政）運営が力ギを握っている。議会はその範を示さないといけない。古い慣習などにこだわり、現状に立ちどまってはいけません。新上越市に向けて議会の民主的運営をし、議会改革をすすめていきたい。新上越市はきびしい財政状況にあり、少子高齢化がすすんでいる。自主自立（の市政）が求められている。（そういうなかにおいて、議会は行政のチェックだけでなく）さらに一層の政策形成能力を高めていかなければならない。議会としても政策研究の場を設けていきたい。

先日まで最大会派・政和クラブの代表を務めていた早津議員が一番のべた約束は、「木浦市政を支えていく、これが第一です」でした。新幹線、上沼道路、観光、農業などの課題の重要性をのべ、「行政と車の両輪となっていく」と語りました。次に、新上越市での一体感醸成について触れ、「合併を最終的に承認したのは議会だ。合併で約束したことをしっかりと守っていくことが一体感醸成につながる」と主張しました。議会改革については、「つい先だってまで議論されていた議会活性化委員会の答申を実行していく。議員定数については検討委員会を設けて議論していきたい」とのべました。

今回の選挙に当たって日本共産党議員団は、山岸、古澤候補との間で、議会改革を推進し、議会が全体として強化されるように努める、少数意見を尊重し、議会の民主的運営に努める、など4項目の確認・申し合わせを行い、両氏を支持しました。



議長・副議長選で初の所信表明演説

議長には山岸行則氏、副議長は古澤弘氏が当選

名立風車の羽根落下問題で橋爪議員が追及



18日の文教経済委員協議会で橋爪議員は名立区のシーサイドパーク内の風車（写真）の羽根落下問題を取りあげました。

同議員は、「もし通路（回廊）に人がいて、羽根が落ちたら重大な事故になるところだった。行政側の安全管理意識が低いところに問題がある」と指摘、改善を求めました。これに対して竹田産業観光部長は、不十分さを認め、今後の対策強化を約束しました。

橋爪議員は事故発生後、2回現地に入り、調査をしました。

日本共産党上越市議員団ニュース

49 2006年5月28日

連絡先	杉本敏宏	524-3787	(東本町5)
	樋口良子	544-6802	(中門前3)
	橋爪法一	548-3628	(吉川区代石)
事務局長	上野公悦	530-2203	(頸城区中柳町)